

V. 地区別の方針

A. 青梅地区



地区の緑の概況

地区の南北には多摩川と山地・丘陵地が位置し、緑地率は45.2%となっています。旧青梅街道沿いには古いまちなみが残り、古い歴史をもつ寺社には、多くの名木・古木があります。JR青梅駅北側には、市の公園の中心となる永山公園があり、多摩川には釜の淵緑地（公園）などの公園緑地等が設置されていますが、身近な公園の平成9年現在の1人当たりの面積は1.0㎡/人と、他の地区に比べ少ない状況になっています。

緑に関する特徴的資源

- 多摩川
- 永山丘陵
- 永山公園、釜の淵緑地（公園）、風の子太陽の子広場
- 金剛寺（青梅）、梅岩寺（しだれ桜）、熊野神社（森下陣屋のカシ）、住吉神社、明白院、乗願寺、旧稲葉家

方針

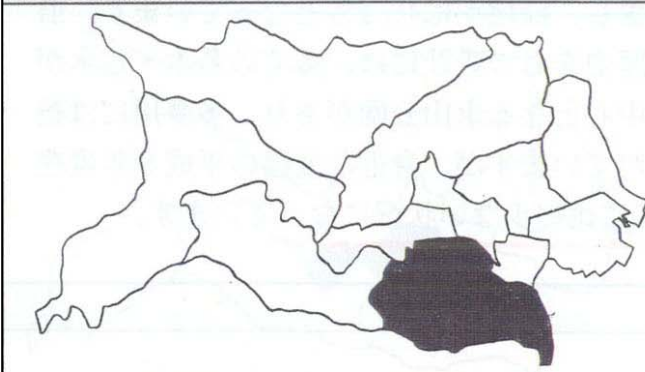
- 身近な公園については、七兵衛公園などの既存公園施設の充実を図るとともに、公園が不足している地域には、誰もが歩いて行ける範囲への公園整備をめざします。
また、永山公園は、レクリエーションや防災の拠点となる総合公園（都市基幹公園）として施設の充実を図ります。

	身近な公園		公園全体	
	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)
現況量 (平成9年)	13	1.3	19	49.4
将来目標量 (平成22年)	14	1.6	20	57.4

- 多摩川は、自然環境の保全を図るとともに、釜の淵緑地（公園）などの水と親しむレクリエーション空間としての充実を図ります。
- 連続性のある河岸段丘の崖線樹林（大柳町や日向和田）の保全を図るとともに、平地林などの保全制度について検討していきます。
- 青梅宿などの歴史あるまちなみと調和した緑豊かな市街地をめざし、民有地の緑化を推進します。

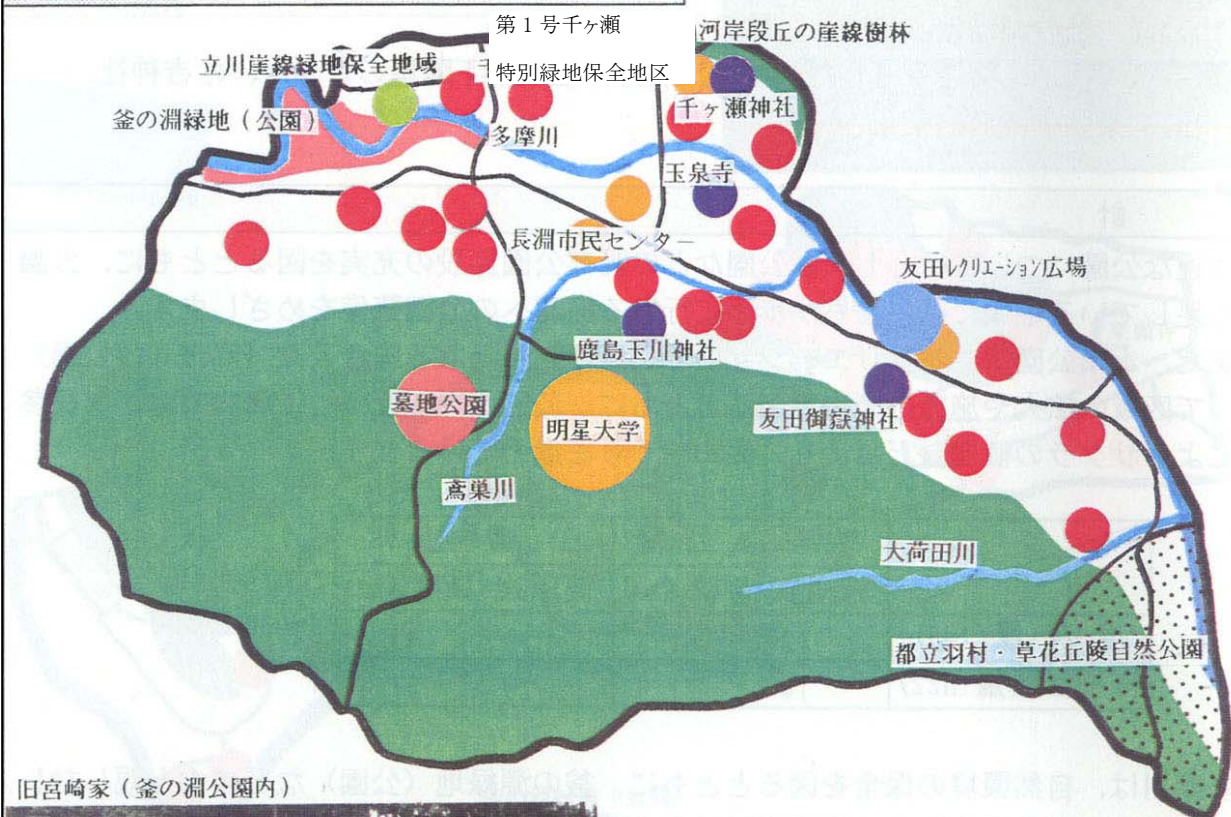
B. 長淵地区

地区の位置



千ヶ瀬神社

地区の現況図



旧宮崎家(釜の淵公園内)



凡 例	
● (Red)	身近な公園
● (Pink)	その他の公園
● (Orange)	学校・市民センター等
● (Purple)	史 跡 等

地区の緑の概況

地区の南部には丘陵地が位置し、多摩川をはじめ、鳶巣川や大荷田川などの河川が流れています。緑地率は68.8%となっており、市街地には果樹園を主体とした農地が多く農・住・工が混在した土地利用となっています。釜の淵緑地（公園）などの公園緑地等が設置されていますが、平成9年現在の1人当たりの身近な公園面積は、0.4㎡/人と他の地区に比べ少ない状況となっています。また、千ヶ瀬町に残る河岸段丘の崖線樹林は特徴ある景観をつくりだしています。

緑に関する特徴的資源

- 多摩川、鳶巣川、大荷田川
- 長淵丘陵
- 都立羽村草花丘陵自然公園
- 河岸段丘の崖線樹林（第1号千ヶ瀬特別緑地保全地区、立川崖線緑地保全地域）
- 釜の淵緑地（公園）、青梅墓地公園、友田レクリエーション広場
- 友田御獄神社、鹿島玉川神社、玉泉寺、千ヶ瀬神社（杜のシイノキ）

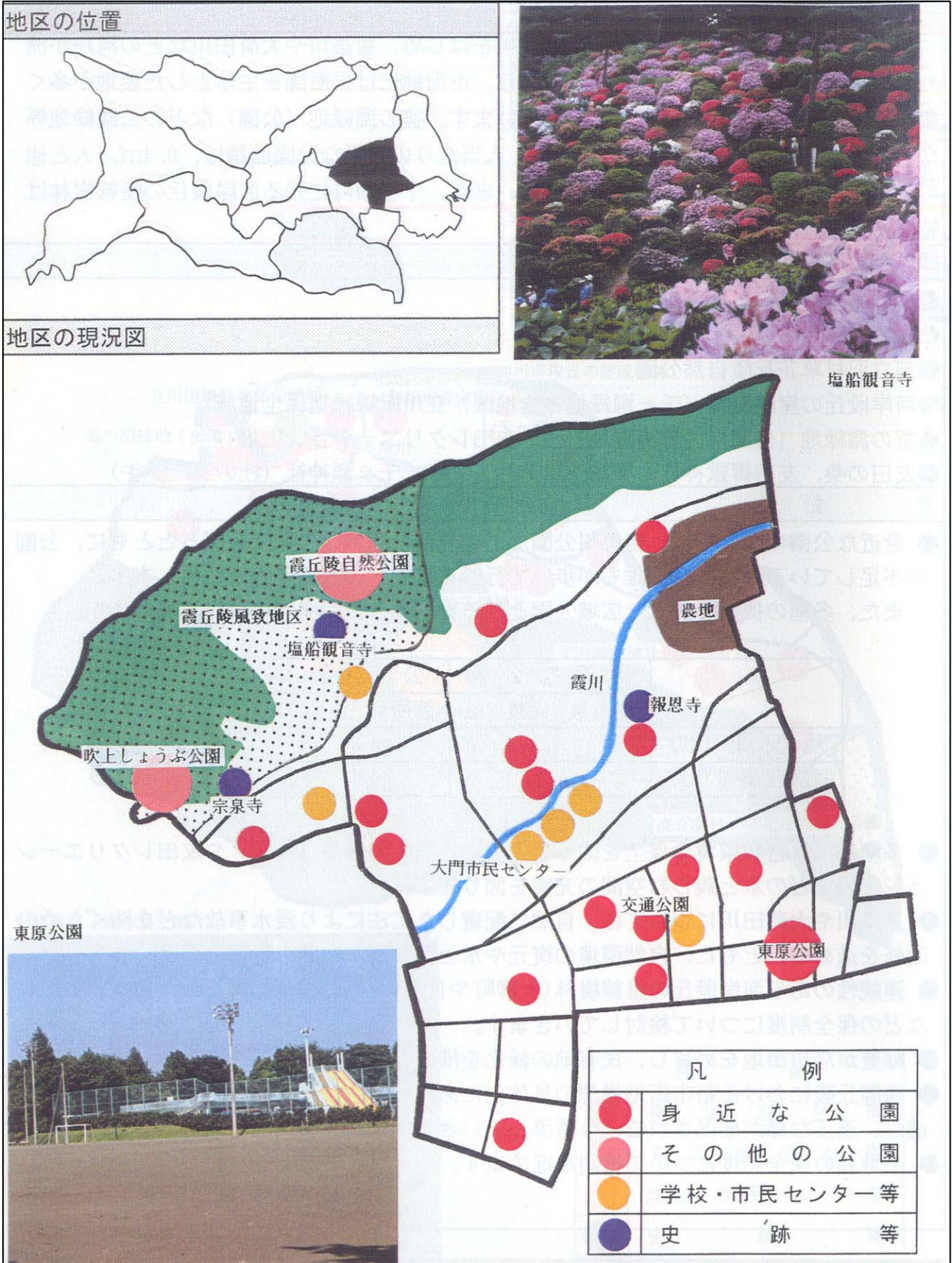
方針

- 身近な公園については、鳶巣川公園などの既存公園施設の充実を図るとともに、公園が不足している地域には、誰もが歩いて行ける範囲への公園整備をめざします。

	身近な公園		公園全体	
	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)
現況量 (平成9年)	19	1.0	26	31.2
将来目標量 (平成22年)	23	4.0	32	84.2

- 多摩川は、自然環境の保全を図るとともに、釜の淵緑地（公園）や友田レクリエーション広場などの水と親しむ空間の充実を図ります。
- 鳶巣川や大荷田川については、自然に配慮した工法により浸水事故などを防ぐための改修を進めるとともに、自然環境の復元や水と親しめる空間の整備を促進します。
- 連続性のある河岸段丘の崖線樹林(千ヶ瀬町)の保全を図るとともに、平地林などの保全制度について検討していきます。
- 緑豊かな市街地をめざし、民有地の緑化を推進します。

C. 大門地区



地区の緑の概況

地区の北部には丘陵地が位置し、一部は、吹上しょうぶ公園や霞丘陵自然公園などを含む、霞丘陵風致地区として指定されています。緑地率は 36.3%となっており、霞川沿いの市街地には、霞水田地区をはじめとした農地や、学校などの公共公益施設が多い地区です。平成9年現在の1人当たりの身近な公園面積は、3.1 m²/人となっています。

緑に関する特徴的資源

- 霞川
- 霞丘陵
- 霞丘陵風致地区、霞水田地区
- 東原公園、青梅交通公園、吹上しょうぶ公園、霞丘陵自然公園
- 塩船観音寺（つつじ・大スギ）、一里塚のエノキ、宗泉寺（カヤ）、春日神社

方針

- 身近な公園については、塚の上南公園などの既存公園施設の充実を図るとともに、公園の不足している地域には、誰もが歩いていける範囲への公園整備をめざします。

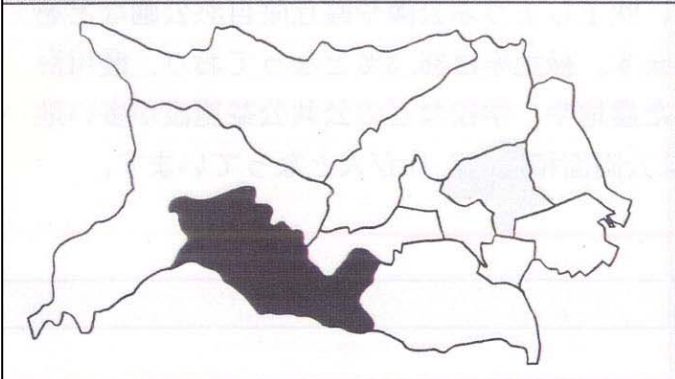
また、吹上しょうぶ公園・霞丘陵自然公園は、地区を代表するレクリエーションの拠点として整備、充実を図るとともに、身近な公園の役割を補うよう、日常生活での利用にも配慮していきます。

	身近な公園		公園全体	
	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)
現況量 (平成9年)	17	5.9	19	12.9
将来目標量 (平成22年)	21	6.0	25	18.3

- 霞丘陵および周辺は風致地区として、良好な自然環境や景観を維持していきます。
- 霞川については、自然に配慮した工法により浸水事故などを防ぐための改修を進めるとともに、自然環境の復元や水と親しめる空間の整備を促進します。
- 霞水田地区は、農業振興地域農用地区域として、農業機能の保全・育成を図ります。
- 市街化区域において公災害の防止など良好な生活環境の確保に役立つ農地は、生産緑地地区として保全を図ります。
- 平地林の保全制度について検討を進めます。
- 学校などの公共施設の緑化を推進します。

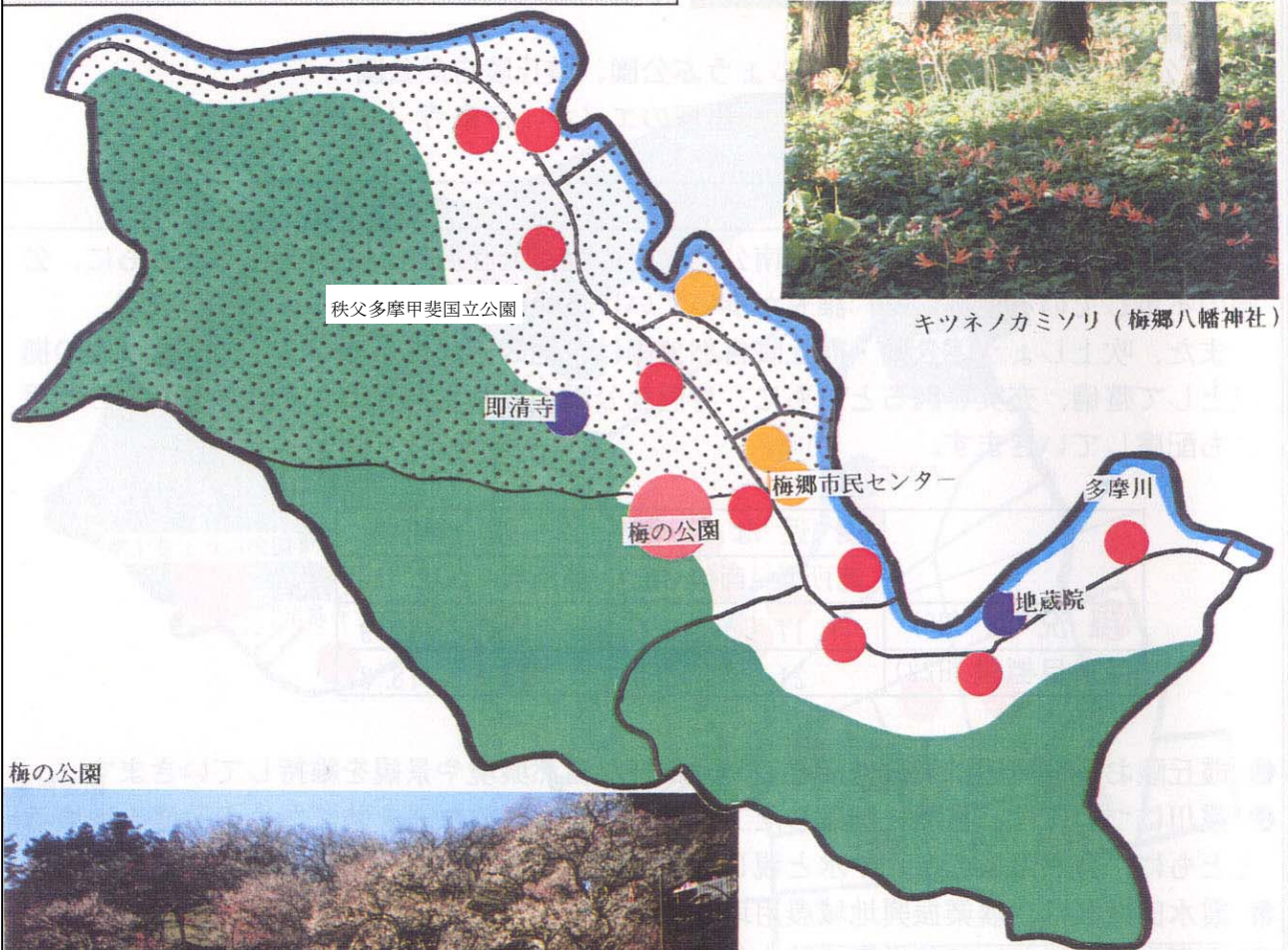
D. 梅郷地区

地区の位置



愛宕神社

地区の現況図



キツネノカミソリ (梅郷八幡神社)

梅の公園



凡 例	
●	身近な公園
●	その他の公園
●	学校・市民センター等
●	史跡等

地区の緑の概況

地区の南北には山地と多摩川が位置し、一部は、秩父多摩甲斐国立公園区域となっています。市街地は、多摩川に沿って形成されていますが、農地が多く、農・住が混在した土地利用がなされています。緑地率は、81.3%となっており、緑の量は多いといえます。また、梅の公園をはじめ、約2万5千本の梅の木がある吉野梅郷は、市を代表する観光地となっています。平成9年現在の1人当たりの身近な公園面積は1.0㎡/人と、他の地区に比べて少ない状況となっています。

緑に関する特徴的資源

- 多摩川
- 関東山地
- 秩父多摩甲斐国立公園
- 梅の公園
- 地蔵院（宝珠梅）、即清寺、大背戸のカシ

方針

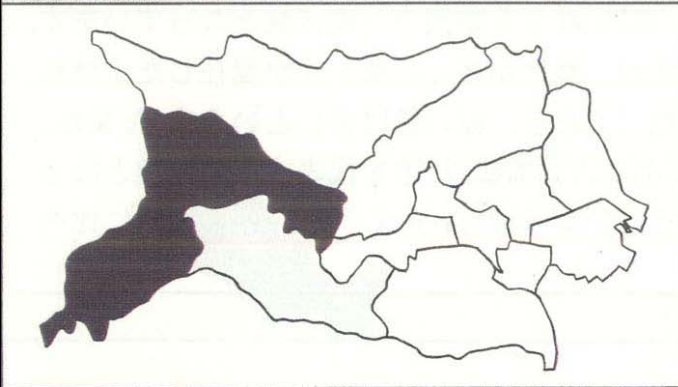
- 身近な公園については、畑中公園などの既存公園施設の充実を図るとともに、公園が不足している地域には、誰もが歩いていける範囲への公園整備をめざします。
また、梅の公園は地区を代表するレクリエーションの拠点として整備、充実を図るとともに、身近な公園の役割を補うよう、日常生活での利用にも配慮していきます。

	身近な公園		公園全体	
	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)
現況量 (平成9年)	9	1.1	12	7.0
将来目標量 (平成22年)	16	3.6	19	9.5

- 多摩川は、自然環境の保全を図るとともに、遊歩道・ピクニック広場などの水辺施設の整備を図ります。
- 山の植林地については、林業の振興やボランティア活動などによる適正な間伐・保育を進めるとともに、一部は、落葉広葉樹林などへの転換を図り、複層林化することを検討します。
- 市街化区域において、公災害の防止など良好な生活環境の確保に役立つ農地は、生産緑地地区として保全を図ります。
- 平地林の保全制度について検討を進めます。

E. 沢井地区

地区の位置



地区の現況図

ロックガーデン

御岳山

秩父多摩甲斐国立公園

辛垣城跡

御嶽

沢井

軍畑

海禪寺

二塚園

古神野

沢井市民センター

多摩川

武蔵御嶽神社

レンゲショマ

凡 例	
● (Red)	身近な公園
● (Pink)	その他の公園
● (Orange)	学校・市民センター等
● (Purple)	史 跡 等

地区の緑の概況

地区の中央部を多摩川が流れ、地区のほとんどが秩父多摩甲斐国立公園に指定されている山地で、御岳山や高水三山などは、観光レクリエーションの拠点となっています。市街地は、多摩川沿いに形成されていますが、農地が多く、農・住が混在した土地利用となっています。緑地率は91.5%と市域のなかで最も緑が多いのですが、平成9年現在の1人当たりの身近な公園面積は、0.7㎡/人と、他の地区に比べ少ない状況となっています。

緑に関する特徴的資源

- 多摩川、御岳渓谷
- 秩父多摩甲斐国立公園、関東山地
- 御岳山・武蔵御嶽神社（ロックガーデン、七代の滝、神代ケヤキ、参道の杉並木、滝本の大スギ）、高水三山、大沢の大ツガ、横吹の大イヌグス、石神社（石神の大イチョウ）、海禅寺（三田氏の墓・クスノキ）

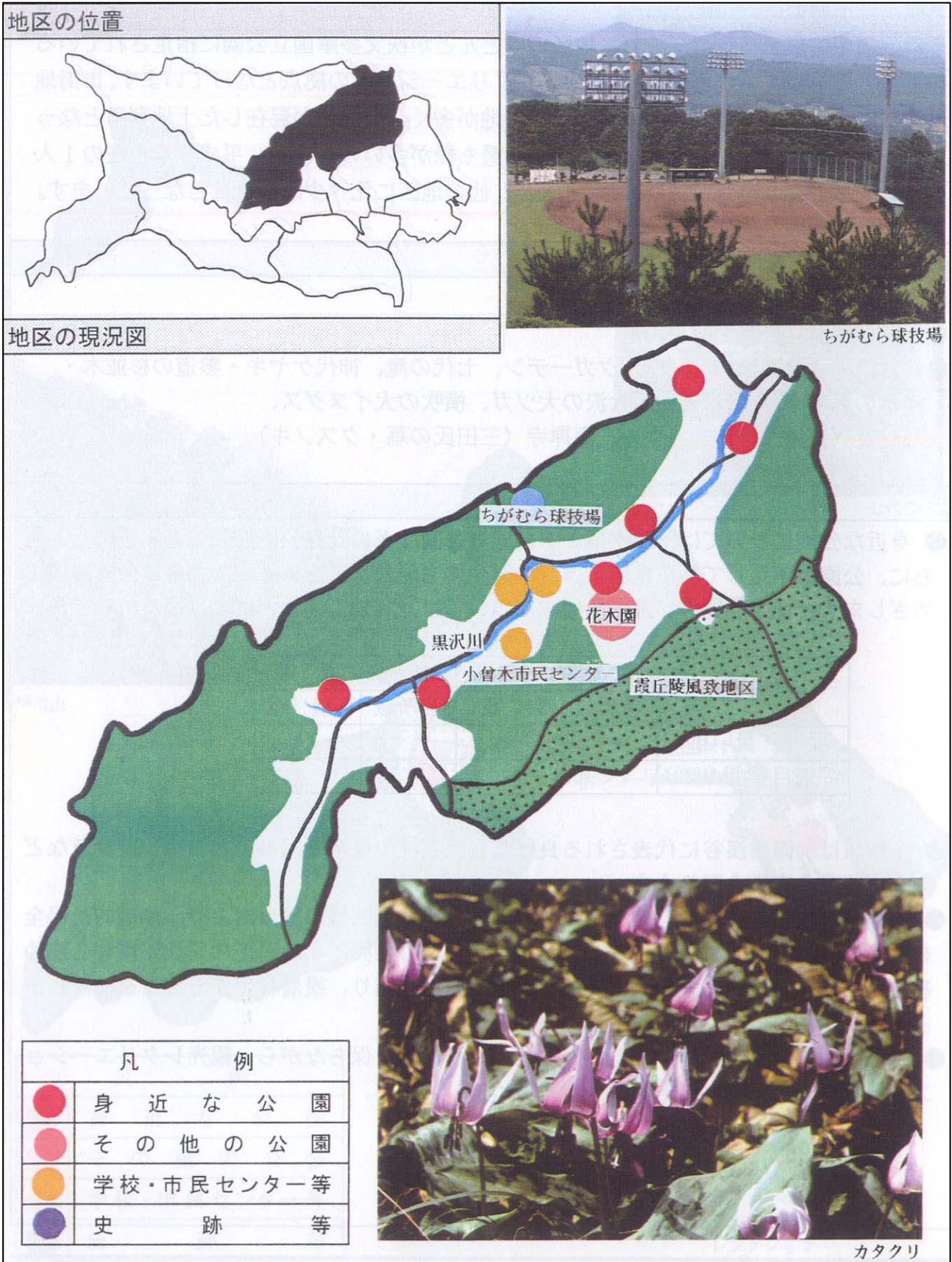
方針

- 身近な公園については、二俣尾3丁目児童遊園などの既存公園施設の充実を図るとともに、公園が不足している地域には、地形や住宅地の状況を考慮しながら、公園整備に努めます。また、公園の整備が困難な地域については、運動広場などにより補っていきます。

	身近な公園		公園全体	
	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)
現況量 (平成9年)	4	0.3	6	0.5
将来目標量 (平成22年)	6	2.2	9	3.3

- 多摩川は、御岳渓谷に代表される良好な自然環境の保全を図るとともに、遊歩道などの水辺施設の充実を図ります。
- 秩父多摩甲斐国立公園内の自然林などについては、特別地域の適用により、積極的に保全を進めていきます。また植林地については、林業の振興による適正な間伐・保育を進めるとともに、一部は、落葉広葉樹林などへの転換を図り、複層林化することを検討します。
- 御岳山や高水三山は自然環境の保全とのバランスを保ちながら、観光レクリエーションや保養の場となる自然空間づくりに努めていきます。

F. 小曾木地区



地区の緑の概況

地区の大半が丘陵地であり、一部は霞丘陵風致地区として指定されています。緑地率は 86.3%と緑豊かな地区となっています。市街地は、黒沢川に沿って形成されていますが、農地も多く、農・住が混在した土地利用がなされています。また、カタクリなどの自生地もみられます。公園緑地等では、農業の体験学習などを行うことができる花木園が位置していますが、身近な公園の平成9年現在の1人当たりの公園面積は1.2 m²/人と、他の地区に比べ少ない状況となっています。

緑に関する特徴的資源

- 黒沢川
- 霞丘陵、小曾木丘陵
- 霞丘陵風致地区
- 農業振興地域農用地区域
- 花木園、ちがむら球技場
- 聞修院、岩蔵住居跡、厚沢の源氏ポタル

方針

- 身近な公園については、富岡2丁目児童遊園などの既存公園施設の充実を図るとともに、公園が不足している地域には、地形や住宅地の状況を考慮しながら、公園整備に努めます。

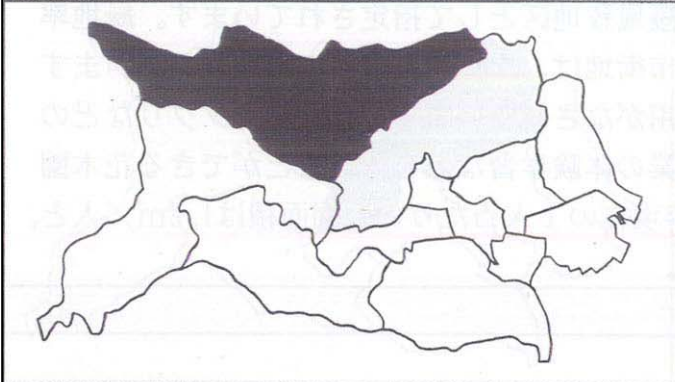
また、花木園は、農業体験を通じて自然とふれあうとともに、遊具や広場などの施設を備えた身近な公園としても活用を図ります。

	身近な公園		公園全体	
	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)
現況量 (平成9年)	7	0.6	8	4.7
将来目標量 (平成22年)	10	5.2	11	60.2

- 霞丘陵および周辺は、風致地区として、良好な自然環境や景観を維持していきます。
- 自然豊かな黒沢川などについては、河川環境や風景の保全を図るとともに、豪雨による増水などの危険な箇所については、自然に配慮した工法により整備を促進します。また、下水道整備の推進を図り、清流を維持していきます。

G. 成木地区

地区の位置



安楽寺

地区の現況図



成木川



フクジュソウ

凡 例	
● (Red)	身近な公園
● (Pink)	その他の公園
● (Yellow)	学校・市民センター等
● (Purple)	史 跡 等

地区の緑の概況

地区全体が山地・丘陵地で、市街化調整区域となっています。市街地は、成木川・北小曾木川沿いに形成されており、農地が多く、地区のほとんどが農林業地となっています。また、採石場（跡地）があります。緑地率は、88.1%と緑豊かな地区となっていますが、平成9年現在の1人当たりの身近な公園面積は0.9㎡/人と、他の地区と比べて少ない状況となっています。

緑に関する特徴的資源

- 成木川、北小曾木川、直竹川
- 関東山地
- 採石場（跡地）
- 成木熊野神社、安楽寺（大スギ）、延命寺

方針

- 身近な公園については、成木1丁目児童遊園などの既存公園施設の充実を図るとともに、公園が不足している地域には、地形や住宅地の状況を考慮しながら、公園整備に努めます。また、公園の整備が困難な地域については、運動広場やふれあいセンターグラウンドなどにより、補っていきます。

	身近な公園		公園全体	
	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)
現況量 (平成9年)	4	0.2	4	0.2
将来目標量 (平成22年)	5	0.4	5	0.4

- 山の植林地については、林業の振興やボランティア活動などによる適正な間伐・保育を進めるとともに、一部は、落葉広葉樹林などへの転換を図り、複層林化することを検討します。
- 自然豊かな成木川などについては、河川環境や風景の保全を図るとともに、豪雨による増水などの危険な箇所については、自然に配慮した工法により整備を促進します。また、下水道整備の推進を図り、清流を維持していきます。
- 新規の採石事業は認めず、跡地については、自然環境の復元を基本としつつ、地域の生活環境に役立つ活用の方法を検討します。